

令和8年度

熊本県立大学 環境共生学部

環境共生学科 食健康環境学専攻

一般選抜(後期日程) 個別学力検査

小 論 文

問題用紙

- (1) 問題用紙は、この表紙を含めて6ページあります。
- (2) 答えは、必ず解答用紙に記入しなさい。
- (3) すべての解答用紙の所定の欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
- (4) この問題用紙は、持ち帰って結構です。

(入試問題は， 4 ページからです。)

(入試問題は， 4 ページからです。)

次の問題Ⅰおよび問題Ⅱに答えなさい。

問題Ⅰ 日本人が栄養や食事に関する情報をどのように得ているかについて、その実態を表および図に示している。これらは、20～79歳の日本人を対象とした調査結果を基に作成されたものである。表には、情報源の利用状況と個人特性との関連性がまとめられており、年齢や性別、生活習慣などとの関係を読み取ることができる。たとえばヘルスリテラシーでは、ここに示されたいずれの情報源の利用においてもヘルスリテラシーが高いことと関連している。一方、フードリテラシーでは、テレビの利用はフードリテラシーが低いことと関連しているが、特定のウェブサイト、本や雑誌、動画サイトの利用はフードリテラシーが高いことと関連していた。図には、日常的に栄養や食事についての情報を得ている主な情報源と、それぞれの利用割合が示されている。

これらの表および図から読み取れる日本人の情報源の利用状況について説明するとともに、信頼できる栄養や食事に関する情報を社会に効果的に普及させるための方策について、あなたの考えを500字程度で述べなさい。

著作権保護の観点から、図表は掲載していません。

〈用語解説〉

ヘルスリテラシー：健康や医療に関する正しい情報を入手し，理解して活用する能力。

フードリテラシー：食品に関するニーズを満たし摂取すべき量を決定するに際して，計画，管理，選択，準備，食べるために必要な相互に関連した知識，スキル，行動の集まりを示す。

統計学的に有意：この表に用いられた統計学的手法では，複数の要因を同時に考慮しつつ，ある事象が「生ずるか否か」にどの要因がどれほど関わるかを検討した。その上で，有意な状態とは偶然にその効果が表れたとは言い難いと判断できる状態を指す。

著作権保護の観点から、図表は掲載していません。

出典：「日本人はどのメディアから栄養や食事についての情報を得ているか ―オンライン質問票調査―」
東京大学プレスリリース（2024年）
<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400232715.pdf>（一部改変）

問題Ⅱ 我が国では、急速な高齢化に伴って在宅療養における適切な栄養管理を持続できる体制づくりが求められている。このような社会状況の変化に対応して2009年4月から施行された「特別用途食品の表示許可基準」において、えん下困難者用食品の規格基準が示された（表）。許可基準Ⅰに該当する食品は、均質なゼリー状の食品などのそのまま飲み込める性状のものであり、許可基準Ⅲに該当する食品は、不均質なものも含むまとまりのよいおかゆなどの少しそしゃくして飲み込める性状のものである。

えん下困難者に食事を提供する際に、留意すべき食事の内容について、表から読み取れることを踏まえたうえで、あなたの考えを500字程度で具体的に述べなさい。

著作権保護の観点から、図表は掲載していません。

出典：「健康増進法に規定する特別用途表示の許可等に関する内閣府令（平成二十一年内閣府令第五十七号）別表第五」より作成
<https://laws.e-gov.go.jp/law/421M60000002057#184>

用語解説

えん下：食物が口腔や食道を通過して胃に至る過程

えん下困難者用食品：えん下を容易にして誤えんや窒息を防ぐために硬さなどを調整した食品

そしゃく：食物を細かくなるまでよくかむこと

付着性：くっつきやすさ

凝集性：まとまりやすさ

喫食：食べること